

# 格付けに関係する主たる経営指標

## 銀行が重視する経営指標は、“安全性”

自己査定後の貸借対照表と自己査定後の損益計算書から経営分析を行います。  
経営指標は、大きく3つの項目（安全性・収益性・成長性）に分類され、銀行は融資に際して、安全性の項目である自己資本比率をはじめ、流動比率や経常収支比率などの下図の経営指標を重要視します。

項目	計算式	目安
流動比率（％）	$(\text{流動資産合計} \div \text{流動負債合計}) \times 100$	100％以上
手元流動性比率（月）	$\text{現金預金} \div (\text{売上高} \div 12)$	1ヵ月以上
固定長期適合率（％）	$[\text{固定資産合計} \div (\text{固定負債合計} + \text{純資産の部合計})] \times 100$	100％以下
借入依存度（％）	$(\text{借入金} \div \text{資産の部合計}) \times 100$	60％以下
自己資本比率（％）	$(\text{純資産の部合計} \div \text{資産の部合計}) \times 100$	10％以上
経常収支比率（％）	$(\text{経常収入} \div \text{経常支出}) \times 100$	100％以上
債務償還年数（年）	$[\text{借入金(社債含む)} - \text{現金預金} - (\text{受取手形} + \text{売掛金} + \text{商品} - \text{支払手形} - \text{買掛金})] \div (\text{当期純利益} + \text{減価償却費})$	10年以下

自己査定後の貸借対照表の自己資本額がマイナス（債務超過）になってしまったり、流動比率や経常収支比率が100％を超えていなかったり、借入依存度が60％以上であったり、債務償還年数が10年以上というような会社に対しては、新規の融資はリスクが大きいと考えます。

そのため、自己査定後の貸借対照表において、手元流動性比率は1ヵ月以上、自己資本比率は10％以上、流動比率や経常収支比率は最低でも100％以上、借入依存度も60％以下で債務償還年数も10年を下回るように決算書を作成する必要があります。

### 経営者が注意すること

決算書の読み方は、金融機関からの融資目線に立った自己査定後の決算書に置き換えて読むことが必要不可欠です。

経営指標の計算は、自己査定後の貸借対照表と自己査定後の損益計算書から算出されますので、税務署に提出した決算書から経営指標の計算をしても、融資の判断基準からはまったく意味がありません。

顧問税理士からの決算説明は、自己査定後の貸借対照表と自己査定後の損益計算書から計算した経営指標の説明を受けるようにして下さい。